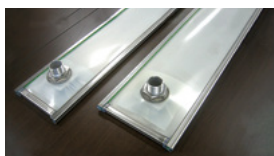


省エネルギー・創エネルギー技術がお客様の多様な設備を脱炭素化します

ビル空調や産業空調、水処理・廃棄物処理施設、搬送機器・システムなど、当社が手掛ける設備・施設は電力などのエネルギーによって稼働しています。これらの多くは長時間にわたり運転されるため、省エネルギー化の推進や創エネルギー設備の導入は、CO₂排出量の削減に大きく寄与します。こうした取り組みは環境負荷の低減と持続可能な社会の実現に向けた重要な手段として、社会的なニーズにも応えています。

エアロウイング
(超微細気泡散気装置)

下水処理施設の消費電力の削減

DOUP®
(産業用クリーンルーム向け
省エネシステム)

半導体製造に欠かせないクリーンルームの冷熱源動力の削減

ペリループ
(大空間向け温度成層空調)

工場や体育館などの大空間で高い省エネ性と快適性を両立

CO₂
SANKI YOUエコ貢献
ポイント制度にもとづく
お客様のCO₂削減量
累計約**48**万トン
(2026年3月時点)

三機工業の省エネルギー技術が実現したお客様のCO₂削減が
「SANKI YOUエコ貢献ポイント」制度を通じて
全国の環境保全活動につながります

「SANKI YOU
エコ貢献ポイント」
制度の仕組み

- ① 三機工業が手がける設備工事等において、お客様のCO₂削減につながる省エネ提案を行います。
- ② 設備の省エネ提案をお客さまにご採用いただいた場合、それによって実現するCO₂削減量に応じて「SANKI YOUエコ貢献ポイント」を発行します。
- ③ 「SANKI YOUエコ貢献ポイント」はCO₂削減量1トンにつき200円に金額換算し、環境保全活動の支援に充てられます。
- ④ 環境保全団体等と連携し、全国各地の植樹プロジェクトへの支援や生物多様性の保全を推進しています。

私たちの仕事は設備を納めるだけでは終わりません。そこから生まれるCO₂削減量を“見える化”し、森の再生へとつなげる——
三機工業の省エネ・創エネ技術を、未来に循環させる仕組みとして「SANKI YOUエコ貢献ポイント」制度をつくりました。

「SANKI YOUエコ貢献ポイント」制度を通じて、お客さまと地球の未来の
両方に貢献すること——それが私たちの約束です。



植樹活動による
累計植樹本数 約**40,000**本
(2026年3月時点)

知多市天然記念物
佐布里梅の保全沖縄科学技術大学院大学(OIST)
サンゴプロジェクトへの支援
(沖縄県)

湘南国際村めぐりの森 植樹祭



マテリアリティ 新たな社会価値の創造

循環型社会への挑戦

基本的な考え方

三機工業グループは、廃棄物の発生抑制、資源の循環的利用、廃棄物の適正処理を徹底することによって、循環型社会の実現を目指します。

三機工業グループ環境方針
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/management/2026>

循環型社会への挑戦
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/resource/2026>

事業を通じたサーキュラーエコノミーへの挑戦

三機工業グループは、事業活動を通じたサーキュラーエコノミーへの挑戦を続け、環境負荷を最小限に抑えつつ、サステナブルな世界の実現への貢献をしています。2023年度より経済産業省が主導するサーキュラーパートナーズに参画し、当社独自の技術力を活かした取り組みを強化しています。

下水道分野では、循環型バイオマス資源として下水汚泥を有効利用するため、燃焼灰の肥料化^{*1}などの研究開発を進めており、国土交通省のプロジェクトとして採択されています。燃焼灰の肥料化については、肥料登録と社会実装を目指し、廃棄物の有効利用と資源循環の促進に貢献します。

また、「中期経営計画 2027」の事業戦略の一つとして、海外パートナーとの連携による水処理技術・製品のアジア展開を目指しています。経済産業省のプロジェクトに採択されたタイ王国における省エネ型排水処理施設導入調査事業^{*2}では、経済成長の著しい新興国の社会インフラについて調査・提案をしました。本事業で得られた知見を活かし、省エネルギーなど付加価値の高い技術を搭載した排水処理施設を海外においても実証し、循環型社会と脱炭素社会の両方に貢献しています。

^{*1} 下水汚泥焼却灰の低コスト肥料化技術に関する調査事業：国土交通省「令和4年度下水道革新的技術実証事業」のFS(Feasibility Study)調査に採択
^{*2} タイ国内における排水基準・規制や工業団地の運営事情、排水処理施設の情報収集などを実施し、省エネ型排水処理施設の商業化の実現可能性を調査：経済産業省「令和5年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金」のFS事業に採択



焼却灰を用いた粒状肥料

Circular Partners
サーキュラーパートナーズ

産業廃棄物の現状

施工現場より排出される産業廃棄物については、当社グループが直接管理する元請現場の産業廃棄物排出量を集計し、実態を把握しています。2025年度の産業廃棄物排出量は14,503t(連結)、最終処分場で処理される廃棄物を除いたリサイクル率の推計値は、86.0%(連結)でした。産業廃棄物処理コストは595,084千円(連結)でした。プラスチックについても、プラスチック資源循環法に基づき排出の抑制、再資源化を推進しています。このほか、廃棄フロン・ハロンなど有害物質の処理についても法令に基づき適切に処理し、処理コストは48,743千円(連結)でした。

産業廃棄物排出量
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/esgdata2026/environment.pdf>

水使用量の抑制

当社グループの所有施設では、水使用量の定期的なモニタリングを行うとともに、水資源の効率化を継続的に検討し、節水を考慮した設備投資の実施も含め、使用量の低減を図っています。水使用量の大半は、事務所・研修宿泊所の生活用水が占めています。三機テクノセンターでは、2025年度の水使用量は36,318m³で、三機テクノセンターへの入居部門数の増加に伴い人員が増えたことで、前年度から1%増加しました。そこで2025年度に三機環境園の池への給水を上水から井水へ変更し、井水を併用することで上水の使用を抑制しています。今後も、事業拡大と水使用量の抑制の両立を図っていきます。

^{*}対象範囲：三機テクノセンター・三機大和ビル、大和プロダクトセンター、那須テクノステーションほか出張所含む8拠点

水使用量
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/esgdata2026/environment.pdf>